

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18590676
 研究課題名（和文） インターロイキン-22を標的とした炎症性腸疾患に対する分子標的療法確立の基礎検討
 研究課題名（英文） Clinical and Basic Aspects of Interleukin-22
 研究代表者
 安藤 朗 (ANDOH AKIRA)
 滋賀医科大学・医学部・講師
 研究者番号：90252395

研究成果の概要：

炎症性腸疾患の病因、病態において活性化T細胞が重要な役割をはたしている。インターロイキン（IL）-22は、比較的最近見いだされた活性化T細胞に由来する炎症性サイトカインの一つである。本研究では、IL-22の生理作用についてヒト大腸筋線維芽細胞をもちいて検討するとともに、マウス大腸炎モデルを用いて *in vivo* における IL-22 の役割を明らかにした。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,500,000	0	1,500,000
2007年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2008年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	600,000	4,100,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：内科系臨床医学・消化器内科学

キーワード： サイトカイン、炎症、腸炎

1. 研究開始当初の背景

炎症性腸疾患の病因は不明である。

2. 研究の目的

IL-22 を標的とした分子標的療法を開発することを目的として、まず、IL-22 の腸管組織を構成する上皮細胞や筋線維芽細胞に対する生理作用を明らかにする。

3. 研究の方法

免疫染色、ウエスタンブロット、RT-PCR

4. 研究成果

IL-22 が炎症性腸疾患において重要な炎症惹起因子として作用していることを明らかにした。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

1. Andoh A, Tsujikawa T, Sasaki M, Mitsuyama K, Suzuki Y, Matsui T, Matsumoto T, Benno Y, Fujiyama Y. Fecal microbiota profile of crohn's disease determined by terminal restriction fragment length polymorphism (T-RFLP) analysis. Aliment Pharmacol Ther. 2009; 29: 75-82. (査読有)
2. Sugimoto K, Ogawa A, Mizoguchi E, Shimomura Y, Andoh A, Bhan AK, Blumberg RS, Xavier RJ, Mizoguchi A. IL-22 ameliorates intestinal inflammation in a mouse model of ulcerative colitis. J Clin Invest. 2008;118:534-544. (査読有)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

安藤 朗 (ANDOH AKIRA)
滋賀医科大学・医学部・講師
研究者番号：90252395

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし